

芸 術

1 学習指導と評価の改善・充実

学習指導要領のねらいを実現するとともに、芸術科の目標である「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし豊かな情操を養う」ためには、目標に準拠した4つの観点による学習状況の評価を行い、生徒の到達度を適切に把握した学習指導を進めることが重要である。

また、学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら、生徒一人一人のよりよい成長を目指し指導が展開されることから、その一連の過程における指導と評価は一体のものであり、評価の結果によって後の指導が改善され、さらに新しい指導の成果を評価することになる。この指導に生かす評価の充実、いわゆる「指導と評価の一体化」が芸術教育に求められている。

このことから、観点別学習状況の評価で示されている4つの観点は、評価の観点でもあり、指導の観点でもあると捉えることができる。そのため、題材の指導計画を作成する際には、4つの観点からそのねらいを整理するとともに、それぞれの観点を示された資質や能力が育成されるように、具体的な指導内容や指導方法を検討しておくことが必要である。

また、各学校においては各科目の評価の観点を踏まえ、生徒の実態や学習内容に合わせた観点別の評価規準を作成し、評価の客観性と信頼性を高めるとともに、生徒の学習意欲を高めるための指導方法及び評価方法を改善し、充実を図ることが大切である。

< 芸術の を付した各科目の評価の観定の趣旨 >

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
音楽	音楽を愛好し、音や音楽に関心を持ち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
美術	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。	創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
書道	書を愛好し、書の文化に関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実
 ~ 「音楽」の指導と評価の一体化を進める取組 ~

(1) 評価計画表の例

科目名	音楽						
単元名	創作（和楽器の特性を生かした器楽曲の創作）						
単元の目標	(1) 和楽器特有の音色や奏法を生かして創作する。 (2) 創作した作品を実際に演奏する。						
評価の観点	関心・意欲・態度 〔観点〕	芸術的な感受や表現 の工夫〔観点〕	創造的な表現の技能 〔観点〕	鑑賞の能力 〔観点〕			
内容のまとめり ごとの評価規準	箏の特性や奏法、表現上の効果、音階に関心を持ち、意欲的、主体的に演奏しながら作曲し、その喜びを味わおうとする。	箏の特性と表現上の効果、また音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す独自の旋律や和音を工夫しながら作曲する。	自らイメージした楽曲を、創造的に表現するための技能を身に付けている。	楽器の特性と表現上の効果、我が国の伝統音楽の音階を理解して、楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わっている。			
評価規準の具体例	箏や平調子の音階に関心を持ち、意欲的に作曲しようとする。 箏の奏法に関心を持ち、意欲的に演奏しようとする。 音階、リズム、フレーズ等に関心を持ち、主体的に作曲する。 音符や記号、標語の意味等に関心を持ち、主体的に作曲する。 旋律や和音の調和に関心を持ち、表現する喜びを味わおうとする。	箏の音階の特徴を感じ取っている。 箏の表現方法を感じ取って表現を工夫する。 音階、リズム、フレーズ等を把握し、様々な表現のための作曲技法を工夫する。 音符や記号、標語の意味等を把握し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、表現を工夫する。 旋律や和音の役割を感じ取って、表現を工夫する。	箏の基本的な奏法を身に付けている。 楽譜を見て、音高、リズム、フレーズ等を把握し、表現する技能を身に付けている。 音符や記号、標語の意味等を把握し、それらが生み出す曲想や美しさを生かし、楽曲にふさわしい表現をする技能を身に付けている。 全体として調和のとれた表現をする技能を身に付けている。	音階の特徴を理解し、旋律や和音のよさ、美しさを感じ取る。			
題材（時間）	学習内容		観点	観点	観点	観点	評価方法
箏の構造と音階 （1）	箏の歴史的な背景を知る。 【VTR】 「さくら変奏曲」を鑑賞し、箏の演奏法、構造、表現の効果、平調子の音階を知る。 【CD、ピアノ】 弦の配列による音階を理解し、作曲の準備をする。 「さくらさくら」の基本奏法練習。						観察 観察 観察
	前奏（2小節）の作曲。 作曲した前奏を中間発表する。						観察 楽譜、演奏
	原曲をイメージして変奏曲を作曲する。 完成した「さくら変奏曲」を演奏する。						演奏
前奏及び変奏曲 の作曲 （5）	楽譜提出。 変奏曲の作曲を通して、工夫したところや他の生徒の作品との比較などについて学習カード（ミュージックノート）に記入する。						楽譜 学習カード（ミュージックノート）

(2) 評価方法の具体例

本単元では、以下の点を評価する。

ア 提出楽譜（自作の「さくら変奏曲」）による評価方法

- (ア) 西洋音楽の手法による五線による記譜方法（音価、拍子、音域）を身に付ける。
- (イ) 弦の配列と音名を理解する。
- (ウ) 前奏の役割を表現する旋律、リズムを作っている。
- (エ) 弦楽器の特性（単独で和音を鳴らしたり、押し手による音高の変化）を作曲に利用している。
- (オ) 原曲「さくらさくら」の雰囲気を残している変奏的なテーマである。

イ A評価の提出楽譜（題、調号、拍子は教師が準備）と評価規準の具体例

さくら変奏曲（オリジナル）

生徒作品（抜粋）

文化箏

巾 為 巾 為 斗 十 九 八 七 八 九 十 八 十

七 七 五 七 九 八 七 八 九 十 八 七 七 五 七 九 八 七 八 九 十 巾

五 五 五 五 五 五 九 八 七 六 七 ヲ

二 二 二 二 二 二 二 六 五 四 三 四 ヲ

- (ア) 前奏 2 小節の中に、テーマ部分の音価や拍子感を予測させる記譜がある (B)
- (イ) 以前の単元（器楽～箏に親しむ）から、階名と弦の位置関係を理解している (A)
- (ウ) 速い旋律は、隣の弦に進行するように無理のない演奏をイメージしている (A')
- (エ) 箏の特性から、和音や「押し手」の技法を作曲に用いている (A)
- (オ) 原曲のテーマ「さくらさくら」を意識した作曲である (A')
- (カ) 準備のための「間」（休符）を設けて無理のない演奏をイメージしている (A)
- (キ) 音符の羅列ではなく、2～4小節単位の整った楽式で作曲されている (A)

3 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実
 ~ 「美術」の指導と評価の一体化を進める取組 ~

(1) 評価計画表の例

科目名	美術					
単元名	表現（デザイン）及び鑑賞 「作家研究」					
単元の目標	(1) 作家や作品について関心を持ち、自ら調査・研究し、テーマの選定や構想に基づいて意欲的、主体的に取り組もうとする態度を養う。 (2) 構想をもとにしっかりと制作計画をたて、制作意図を的確な構成や技法と色彩で、創造的に表現する。 (3) 作品の鑑賞からお互いのよいところを感じ取り、意欲的、主体的にその美しさを味わう。					
評価の観点	関心・意欲・態度 〔観点〕	芸術的な感受や表現 の工夫〔観点〕	創造的な表現の技能 〔観点〕	鑑賞の能力 〔観点〕		
内容のまとめり ごとの評価規準	美術と生活とのかかわり、美術作品の背景や表現方法の特徴、日本の美術の歴史等に関心を持ち、映像メディア表現による発信・交流などを通して意欲的、主体的に鑑賞し、その楽しさや喜びを味わい、心豊かな生活を創造していこうとする。	感性を働かせてデザインが日常生活に潤いを与えていることを感じ取り、機能と美しさや楽しさを考えて主題を生成し、表現形式や方法、造形要素の働きなどを理解し、それらを効果的に生かして創造的に表現を構想する。	表現形式や技法を主体的に選択し、色彩、材料や用具の生かし方などの技法を働かせ、意図を生かして創造的に表現する。	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然の中に働く美術の意義や価値、日本の美術の特質などを感じ取り、理解し、映像機器や情報通信ネットワークなども活用して理解を深め、美術作品のよさや美しさを創造的に味わう。		
評価規準の具体例	普遍的な価値や美しいものを見分けようとする。 制作の背景にある作者の感動や夢、作品に込められた心情などを感じ取るようとする。 作者の考えや作品をその人独自のものとして尊重する。 作者や作品について関心を持ち、積極的に調べようとする。	心豊かに生活する上でデザインが果たしている役割について理解し、用途や美しさを考慮して表現を構成する。 デザインのもつ情報伝達性を理解し、創造的な表現に生かす工夫をする。	材料や用具の創造的な生かし方などを工夫する。 色彩や形体の機能を考え、意図に応じた制作の方法を工夫する。 情報が総合的に分かりやすく的確に相手に伝わるように、表現する。	作品の良さや美しさを深く味わい、題材のとらえ方や表現の仕方のよさを感じ取る。 表現のよさや作品の美しさに対し自己の意見を述べるができる。		
題材（時間）	学習内容	観点	観点	観点	観点	評価方法
導入 （1）	作家や作品について鑑賞し、幅広い表現の可能性を発見する。また本単元の内容を理解する。					鑑賞カードA
調査と研究 （2）	作家や作品について調査・研究し、レポートにまとめる。					研究レポート
プレゼンテーションボードの制作 （2）	写真やイラストなどを用い、調査・研究した内容をプレゼンテーションボードにまとめる。					プレゼンテーションボード
鑑賞 （1）	プレゼンテーションボードを鑑賞し、感じたことを鑑賞カードにまとめる。					鑑賞カードB

(2) 評価方法の具体例

本単元では、以下の点を評価する。

ア ワークシート（研究レポート）による評価方法

- (ア) 制作の背景にある作者の感動や夢、作品に込められた心情などを感じ取る。
- (イ) 作家や作品について関心を持ち、積極的に調べてまとめる。

イ プレゼンテーションボード（作品）による評価方法

- (ア) デザインの持つ役割について理解し、用途や美しさを考慮して表現を構成する。
 (イ) 色彩や形体の機能を考え、意図に応じた制作の方法を工夫する。
 (ウ) 作家や作品、自己の意見などの情報が総合的に分かりやすく的確に相手に伝わるように表現する。

ウ ワークシート（鑑賞カード）による評価方法

- (ア) 表現のよさや作品の美しさ、作者の考えなどに対し自己の意見をまとめる。（鑑賞カードA）
 (イ) まとめられた作品の良さや美しさを深く味わい、題材のとらえ方や表現の良さを感じ取る。（鑑賞カードB）

< ワークシート（研究レポート、鑑賞カード）・作品（プレゼンテーションボード）の具体例 >

●研究レポート		1年〇組〇番 氏名〇〇〇〇
A 作家名	ドガ	
B 生い立ち（経歴）	<ul style="list-style-type: none"> ・1834年7月19日ノリのサンジヨルジュ街8番街に生まれる。本名イール・ジェルマン・エドガール・ドガス ・1852年18歳。中学校を修了。デッサンコンクールで1等賞を獲得する。 ・1860年26歳のときに、この頃ブームを呼びはじめていた日本美術・浮世絵を知ったと思われる。 ・1867年33歳。家族の肖像2点をサロンに出品。カスタンヤリの賞賛を受ける。 ・1878年44歳のときからモノタイプ版画を多く制作する。 ・1892年58歳。視力は日増しに衰え、油絵を放棄せざるを得なくなる。 ・1898年64歳。付近の風景を写真に撮り、これをもとにアトリエで制作する。 ・1904年70歳。盲人同然となり、大まかなタッチで描くが、旧作の補修以外はほとんど制作不能となる。 ・1912年78歳。制作活動は覚悟したコレクションを鑑賞することもできなくなった。 ・1917年83歳。9月27日死去。 	
C 時代背景・文化様式	写実主義-哲学用語の現実主義からの転用語で観念的なもの想像的なものを嫌い、現実の事実を客観的な態度で、あるがままに演出しようとする文学上の主張、または様式をいう。ドガはこの写実主義だった。	
D 代表的作品	「ベルレリ一家の肖像」 家族全員を一画面に描いた集団肖像画はアングルに何点かある。ナポリの親戚ベルレリ一家をまとめて大画面にしようという発想はあるいはアングルの先例からくるかもしれない。 現在に残る習作群のうちこのパステルは最も準備の進んだ段階を示している。あるいはこれはナポリやフィレンツェでなく、1860年代初頭ノリで描かれたかとも考えられる。左下には赤いアトリエ印が押されている。	
E その他	「ダンス教室」の螺旋階段ははじめてこの絵が発表されたとき「醜い」と評されたのだが、これによく似たグラスゴー美術館の作品にも登場する。死後、ドガのアトリエにはこの階段のモデルが残されていたという。ドガは同じ様な階段の出でくるレンブラントの作品を研究したのだという説もある。	
F あなたの感想	ドガは18歳の時からいろいろな賞を獲得して凄いなと思った。50代になってから体調が悪くなったり、視力が衰えても最後まで彫刻などを作っていたから、この人は本当に絵が好きなんだなと思った。	



●鑑賞カードB 1年〇組〇番 氏名〇〇〇〇	
A 内容について 〈作家や作品について〉	ドガの人生について良くわかりました。特に晩年について、良い作家なのに目が見えなくなり、作品を思う様に作れなくて可哀想だともいえました。もし目が見えていたらもっと素晴らしい作品が残されていたと思うととても残念です。しかしそのような状況でも彫刻制作していたことにも感動し、自分も最後まで何か打ち込む情熱を持ちたいと感じました。
B 表現について 〈プレゼンテーションボードのデザイン〉	作品の写真と文字のレイアウトが良く、文字もとても丁寧に書かれていてとても見やすいと思いました。また見出しがありテーマごとにわかりやすくまとめられていてと思います。
C 教師のコメント	〇〇さんが述べている通り、とても見やすいレイアウトですね。またドガが最後まで目が見えていたらという発想についても興味深く、先生も同感です。どんな絵を描いたのだろうね。

4 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実
 ~ 「書道」の指導と評価の一体化を進める取組 ~

(1) 評価計画表の例

科目名	書道				
単元名	漢字仮名交じりの書 ~手紙の書・思いを伝える~				
単元の目標	(1) 書が生活の中で果たしている役割を理解し、書を社会生活の中で生かそうとする。 (2) 名筆の鑑賞を通し、「手紙の書」のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。 (3) 「手紙の書」の表現を通して実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付け、自己を主体的に表現する能力を伸ばす。				
評価の観点	関心・意欲・態度 〔観点〕	芸術的な感受や表現 の工夫〔観点〕	創造的な表現の技能 〔観点〕	鑑賞の能力 〔観点〕	
内容のまとめ ごとの評価規準	手紙の書の表現及び鑑賞活動を通して、日常的な言葉による書表現に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。	書写能力を高め、用具・用材を生かし、芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けている。	書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統などを理解し、表現と鑑賞の関連を図りながら、そのよさや美しさを深く味わう。	
評価規準の具体例	目的や用途に即した芸術的な表現について、基礎的な事項を理解し、自ら表現活動を楽しんで行おうとする。 Aとするキーワード ・意欲的 ・書きぶり	目的や用途に即した形式と表し方を判断し、文字の大きさ、配列、書体など、それぞれに適した表現を工夫している。 Aとするキーワード ・相手に応じた工夫 ・内容に応じた工夫	芸術的な表現や実用的な表現に応じた形式と表し方を理解し、目的や用途に即して表現する技能を身に付けている。 Aとするキーワード ・筆の扱い ・既習事項の応用	毛筆による手紙の表現が、目的や用途、筆者の人間性や時代性を反映したものであることを感じ取る。 Aとするキーワード ・時代背景や書風を踏まえた記述	
時間	題材・学習内容	観点	観点	観点	観点
1	手紙の形式について知識を深め、範例に沿って演習することで書写技術の向上を図る。				作品
2	名筆の鑑賞を通して、毛筆の表現の多様性を学ぶ。				鑑賞カード・観察
3・4	「親しい友人」「家族」への手紙を書く。				観察・学習カード 作品

(2) 評価方法の具体例

本単元では、以下の点を評価する。

ア 鑑賞カードによる評価方法

- (ア) 時代背景を踏まえた記述や、書から感じられる人間性や手紙に込められた思いを汲み取った記述がなされている。

イ 作品 による評価方法

- (ア) 基本的な筆使いができています。

ウ 学習カードによる評価方法

- (ア) 相手や内容に応じた工夫がみられる。
(イ) 意欲的な記述がみられる。

エ 作品 による評価方法

- (ア) 毛筆の特性が生かされている。
(イ) 意欲的な書きぶりがみられる。
(ウ) 相手や内容に応じた工夫がみられる。

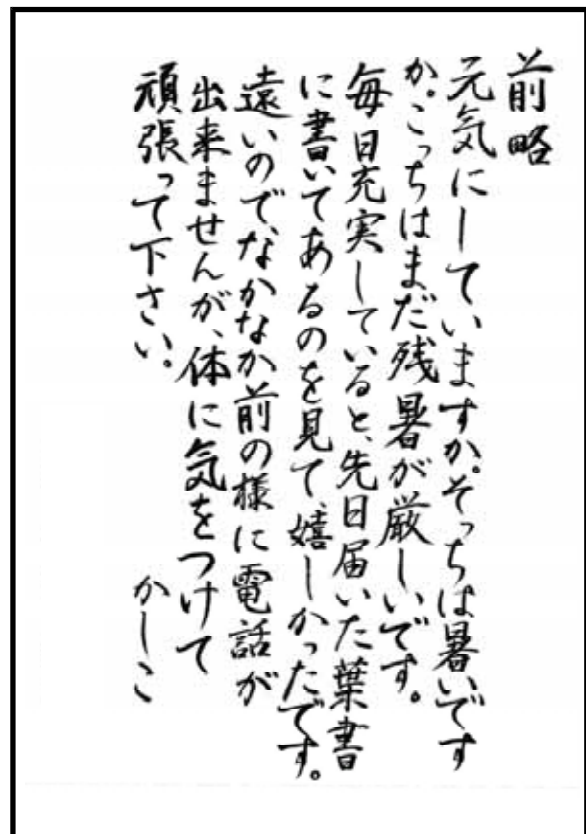
< 鑑賞カードの具体例 >

鑑賞カード 手紙の書						
						1年組 氏名
	筆者	宛先・関係	目的	時代	内容の要約	書から感じられる人間性や手紙に込められた思い、時代背景など
	空海	最澄 (友人・ライバル)	礼状	平安	・贈られた経典のお礼 ・今は比叡山に行けないことの詫び ・今後の仏教界のこと	・丁寧な書きぶりで相手に対する尊敬の気持ちを感じる。 ・礼儀正しい。 ・相手を意識しているようで、形式的。 ・この時代、男性は漢文表記が普通。
	野口シカ	野口英世 (母と子)	帰国の依頼	明治	・近況報告 ・帰ってきてほしい	・必死に書こうとしている。 ・一生懸命さが伝わってくる。 ・伝えたいという思いの強さを感じる。
	樋口一葉	半井桃水 (先生・恋人)	病気の見舞い	明治	・病気療養中の先生(恋人)を見舞う。	・安否を気遣う、急ぐ気持ち。 ・優しさ、繊細さ、温かみを感じる。 ・候文 ・教養の高さや女性らしい書きぶり。
	菊池寛	芥川龍之介 (友人)	弔辞	昭和	・自殺した友人への思いを述べた。	・字形が四角く、力強さや男らしさを感じる。 ・力強い書きぶりから、決意を感じる。 ・擬古文
最も印象に残った手紙		その理由(どのような点)				
野口シカ		<ul style="list-style-type: none"> ・字が上手く書けないのに頑張って書いていることが良くわかり、息子への愛情を感じた。 ・一生懸命書いていることが伝わってきた。 				

< 学習カードの具体例 >

学習カード 手紙で思いを伝えよう	
1年組 氏名	
誰に宛てるか	留学中の友人
何を伝えたいか	
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生生活を頑張ってほしい 	
手紙文の内容(文章)	
<p>前略</p> <p>元気にはしていますか。そっちは暑いですか。こっちはまだ残暑が厳しいです。毎日充実していると、先日届いた葉書に書いてあるのを見て嬉しかったです。遠いので、なかなか前の様に電話が出来ませんが、体につけて頑張って下さい。</p> <p style="text-align: right;">かしこ</p>	
どのように書くか(どうすれば思いが伝わるか)	
<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に気持ちを込めてゆったりと書く。 	
自己評価(意識した点、工夫したところ)	
<ul style="list-style-type: none"> ・文字間隔を少し詰めて書いてみると行間がすっきりとして読みやすく、綺麗にまとまったと思う。 ・筆で書いた文字の良さができるように意識した。 	

< 作品 の具体例 >



5 観点別評価の考え方

実際の評価場面では、各観点の評価規準に照らして、その実現状況を評価することになる。実現していれば「おおむね満足できると判断される」状況（B）と評価し、実現していない場合は「努力を要する状況」（C）となり、当該生徒には対応や手だてが必要となる。さらに（B）と評価される生徒の学習状況について質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときには、「十分満足できる」状況（A）であるとする。

6 観点別評価の総括

(1) 総括についての考え方

「学習活動における具体の評価規準」ごとにA、B、Cの評価を行い、それらの結果を総括し、題材ごとの評価とする。次の具体例においては、「学習活動における具体の評価規準」の評価結果のうち、最も多い記号が題材における観点ごとの学習状況を最もよく表しているという考え方に立って行っている。また評価結果が「A」と「B」で同数になるような場合にはあらかじめ総括する方法を決めておく。

<「音楽」の単元の評価の具体例>

具体の 評価規準	関心・意欲・態度 〔観点〕						芸術的な感受や表現の工夫 〔観点〕						創造的な表現の技能 〔観点〕						鑑賞の能力 〔観点〕											
	評価						評価						評価						評価											
生徒名																														
あ	B	C	B	B	B	B	B	C	B		B	B			C	C	B	B	B	B										B
い	B	B	A	A	A	A	B	B	B		B	B			A	A	A	A	A	A										A
う	B	B	B	B	B	B	A	A	A		B	A			B	A	A	B	A	B										B

(2) 学年末の評価への総括

学期や学年の成績として総合的にA、Bや、評定を判断するとき、どの学校でも共通するおおむねの目安を設定しておく必要がある。評定の総括の方法については、4つの観点を単純合計する方法や、題材ごとや観点ごとに重み付けを変えるなど、各学校で定めておく必要がある。その際、学習指導要領の教科の目標に照らして、関心・意欲や知識・理解、芸術の諸能力などがどのように身に付き伸びているのか、客観的な根拠を持って見ることが大切である。したがって、年間の評定は、観点別評価点を集計して4つの観点ごとに総括することが原則であると考えられる。

また、評価の総括方法については、シラバスなどを通じて事前に生徒や保護者に説明することが大切である。

<「音楽」の学年末の評価の具体例>

単元	観点	観点	観点	観点	特記事項・・・「A」「C」とする根拠
歌唱～ポピュラーソング、日本歌曲～	A	A	A		積極的な姿勢がみられ、表現が豊かであった。
器楽～和楽器(箏)に挑戦～	B	B	B	B	
器楽～アルトリコーダー～	B	C	C		苦手意識が先行し、遅いテンポでも表現できない。
重唱～ボイスアンサンブル～	A	A	A		声部のリズムを理解し、積極的に発声につとめた。
鑑賞～天使にラブソングを2～	B			B	
歌曲～西洋の音楽～	C	C	C		外国語が苦手で、名演を聞かせたり、母音で歌わせてみるなど指導したが意欲的に取り組めなかった。
器楽～ギター～	B	B	B		
表現・鑑賞～アジアの音楽～	B	B	B	B	
創作～和楽器による創作～	B	B	B		
歌唱～合唱～	A	A	A		パートリーダーとして豊かな響きをつくりあげた。
器楽～トーンチャイム～	A	B	B		
鑑賞～オーケストラを知ろう～	B	B	B	B	
総合音楽～クラスコンサートを開こう～	A	B	B	B	
学年末	B	B	B	B	評定3